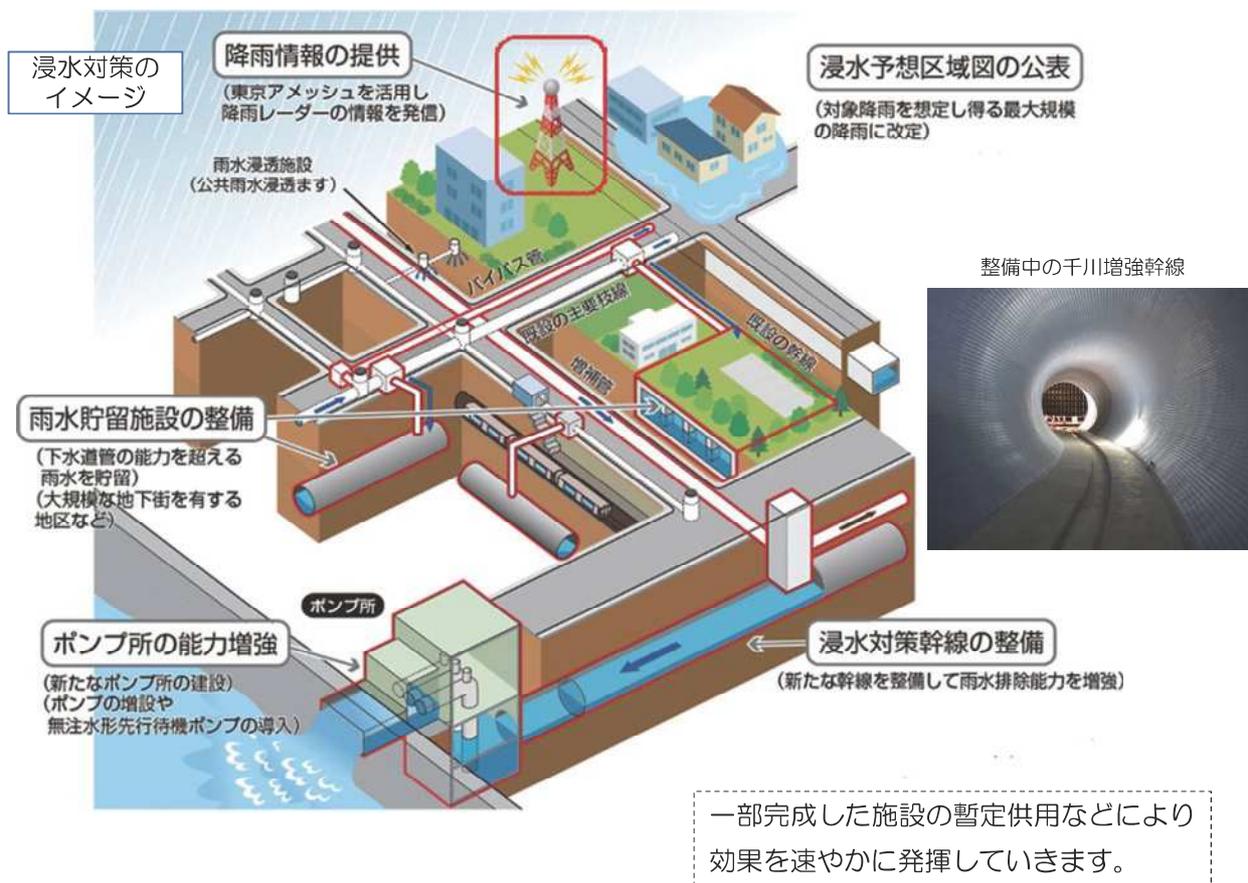


## 《浸水対策の取組》

近年、集中豪雨の頻発や台風の大型化など、全国各地で浸水被害が多発している状況にあることや、気候変動の影響により降雨量が増加していくことも想定されており、更なる対策の強化が求められています。そこで、令和4年3月に「下水道浸水対策計画2022」を策定し、区部では目標整備水準を1時間50ミリ降雨から75ミリ降雨へとレベルアップしました。早期に浸水被害を解消するため、浸水の危険性が高い地区を重点化し、下水道施設の整備を推進します。



## 《事業所におけるDXの取組》

東部第二下水道事務所・梅田ポンプ所では、タブレット端末と二次元コードを組み合わせ、経験の浅い職員でもその場で業務手順の解説動画を確認できる「点検操作・経路案内・異常判別支援システム」を構築しました。

本取組は、「都庁DXアワード2023」※において業務改革部門で知事賞を受賞しました。

※「都庁DXアワード2023」

職員の創意工夫により生まれたデジタルを活用した優れた取組を全庁で共有・横展開するとともに、各職場での更なる取組に向けた機運醸成を図るための表彰制度です。

現場で動画付きのマニュアルを確認する様子



## 《アースプラン2023の策定》

令和5年3月に策定した「アースプラン2023」では、下水道事業の特性を踏まえて地球温暖化対策とエネルギー対策を一体的に推進し、脱炭素化に向けた取組を更に加速・強化するため、温室効果ガス排出量を2030年度までに50%以上削減（2000年度比）する一段高い目標を設定しました。また、その先の2050年ゼロエミッションの実現に向け、革新的な取組に挑むビジョンを示しました。今後も更なる省エネルギー設備等の導入拡大や再生可能エネルギーの利用拡大を図るとともに、新たな技術開発を推進し、地球温暖化対策を加速・強化していきます。



エネルギー自立型焼却炉（新河岸水再生センター）



太陽光発電（森ヶ崎水再生センター）

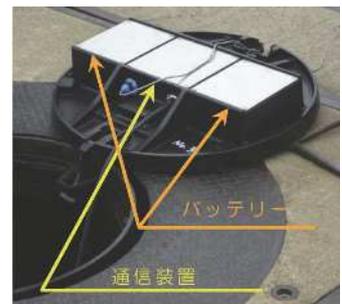
## 《市町村との連携による雨天時浸入水対策》

多摩地域※では、豪雨時に市町村の管理する污水管に大量の雨水が入り込む、雨天時浸入水によるマンホールからの溢水が発生しており、対策が必要となっています。

対策を効果的に促進するため、都では、下水道管内の水位等を計測する多機能型マンホール蓋を設置し、浸入水量を市町村と情報共有しています。また、浸入水量の多い地域を特定するための勉強会の開催や、市町村が実施する浸入水対策等に活用できる補助金を創設するなど、技術面・財政面から市町村の対策を支援しています。



多機能型マンホール蓋の活用イメージ



多機能型マンホール蓋

※多摩地域の下水道は、都が事業を行う流域下水道と市町村が事業を行う流域関連公共下水道が一つのシステムとして機能を発揮しています。